

子宮頸がん予防ワクチン予防接種について

次に該当する人は子宮頸がん予防ワクチン予防接種を受けることができます

対象者 小学6年生～高校1年生相当の年齢の女子で、接種を受けていない子
【標準的な接種期間：中学1年生で3回接種】

ワクチン名と標準的な接種間隔 *2種類のワクチンのうち、どちらか1方を受けてください。
【サーバリックス】1か月の間隔で2回接種。1回目の接種から6か月後に3回目を接種。
【ガーダシル】2か月の間隔で2回接種。1回目の接種から6か月後に3回目を接種。
* 2回目の接種間隔がずれた場合は、3回目の接種時期が変わる場合があります。
* 過去に一部接種した回数については、これを踏まえ、残りの接種回数を受けてください。

子宮頸がん

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因で引き起こされる病気です。

HPVは皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100以上の種類に分類されています。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる表皮の微小なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、海外においては性活動を行う女性の50%以上が、生涯で一度は感染すると推定されています。

粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類は子宮頸がんから検出され、「高リスク型HPV」と呼ばれています。高リスク型HPVの中でも16型、18型とよばれる2種類は特に頻度が高く、海外の子宮頸がん発生の約70%に関わっていると推定されています。また、子宮頸がん以外にも、海外において少なくとも90%の肛門がん、40%の膣がん・外陰部がん・陰茎がんに関わっていると推定されています。その他、高リスク型に属さない種類のものは、生殖器にできる良性のイボである尖圭コンジローマの原因となることが分かっています。

予防接種の効果と副反応

ワクチンの中には、いくつかの種類のヒトパピローマウイルス（HPV）のウイルス成分が含まれており、予防接種を受けたお子様は、これらに対する免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、HPVにかかることを防ぐことができます。

ただし、予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、極めて稀ですが、重い副反応がおこることがあります。 予防接種後にみられる反応としては、下記のとおりです。

主な副反応

主な副反応は、発熱や局所反応（痛み・発赤・腫れ）です。また、ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるイスに座るなどして様子を見るようにしてください。

稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）等が報告されています。

予防接種による健康被害救済制度について

• 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

* 給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、尾道市健康推進課へご相談ください。

接種を受けることができない子

- ① 明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

* 現在、妊娠中の方は、接種することに注意が必要な方なので、かかりつけ医にご相談ください。

接種後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後 30 分間は、接種場所でお子さんの様子を観察してください。
医師の診察がすぐに受けられる場所にいきましょう。急な副反応は、この間に起こることがあります。
- ② 接種後 24 時間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位はこすらないようにしましょう。
- ④ 接種当日は激しい運動をさければ、いつもどおりの生活ができます。
- ⑤ ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種を受けた翌日から 6 日以上あければ、他の予防接種を受けることができます。
- ⑥ いつまでも高熱がひかない場合やひきつけ、けいれんを起こしたときには、すぐに医師の診察を受け、健康推進課へ連絡をしてください。
- ⑦ 予防接種をした後も、このワクチンでは予防できない型のヒトパピローマウイルスによる病変の早期発見、早期治療のために子宮頸がん検診の受診が必要です。20 歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

料 金 無 料

接種場所 県内の広域予防接種受託医療機関

接種時必要なもの 予診票・予防接種券・母子健康手帳

問合せ先

尾道市福祉保健部健康推進課（総合福祉センター2 階） 電話 0848-24-1960

次の接種日を忘れないように受けましょう。